全国高等学校ビジネスアイディア甲子園

第10回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園で
準グランプリを受賞した「静岡県立浜松東高等学校」が
2011年12月21日、毎日新聞に掲載されました。

ビジネスアイディア甲子園 準グランプリ

浜松東高生が区長表敬

高校生がビジネスプランを競う「第10回全国高校ビジネスアイディア甲子園」（大阪商業大、毎日新聞社主催、経済産業省など後援）で、準グランプリと学校賞を受賞した浜松東高校の2年生4人が20日、鴨林秀秀・浜松市東区長を表敬訪問した。斎藤友里菜さん（16）、新村有己乃さん（16）、奥山綺織さん（17）、内藤俊衣さん（16）は、「地域活性化事業　遊休農地の活用法（ドリームファーム事業）」を提案し、17日に同大で行われた最終審査で158校664件の中から準グランプリに選ばれた。

同高では今春から東区役所の協力を得て、食育と地域の農業に関する学習を始めた。増え続ける遊休農地に関心を抱いたグループは、①学校を中心にした農地借り上げ②作物を生産③地元企業と連携して商品化④収益を次年度の商品開発費に活用――というサイクルを考案し、高い評価を得た。

高林区長は、「700近い応募の中から選ばれたことは、これからの大きな自信になる」と労をねぎらった。代表の斎藤さんは、「地域と協力して開発した商品を、文化祭などを通じて広く知ってもらえるよう努力を続けたい。後輩にも活動をつなげたい」と話した。【高橋龍介】

遊休農地の活用法提案



高林秀秀区長（後列中央）を表敬し、受賞を喜ぶ浜松東高の4人

※毎日新聞社の許諾を得て転載しています。